



市整会 会報

大阪市立大学整形外科開業医会

No.41 2009年1月14日発行

(医) 頼整形外科クリニック
〒591-8004 堺市北区蔵前町1226-1 サンロード1F
TEL 072-250-3211 FAX 072-250-3222

巻頭言

市整会副会長 楯 憲一郎

新しい年を迎え市整会会員の先生方には、御健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より諸先生方には、会運営に御尽力・御協力いただき又、貴重な御意見を賜り厚く御礼申し上げます。

現在会員も200余名となり、新年会・家族会・ゴルフコンペ等の福利厚生、学術講演も定期的に開催していますが、医療の危機がさげられるなか、今迄以上に会員相互の情報交換、結束が求められていると思います。時間の許す限り御参加を御願ひ致します。

さて、金融危機の嵐が吹き荒れる中、世界が注目したアメリカ大統領選挙でオバマ氏が当選しました。彼は“チェンジ”というスローガンをかけ、圧倒的な票を獲得、アメリカ国民の心をつかみました。注目したいのは、彼は貧困層の救済を政策の重点項目とし、医療保険制度の改革も一つの柱としています。オバマ流の発想で“チェンジ”となるか成り行きを見守りたいものです。

ところが、日本においては既に諸先生方が認識されているように、小泉内閣時代の悪政とも言える「医療制度改革」による急激なチェンジ（辞典

によると翻すという意味もあります）まさしく「医療制度」はひっくりかえされたわけです。年間2200億円の社会保障費の削減政策、これは現在やや後退しているようですが、初めに経済政策ありきで社会保障費は定額が定められ、医療報酬にしても開業医は儲かっているから、医師不足に悩む勤務医対策にまわそうといった帳尻合わせですまそうとしています。もちろん、経済政策は重要であり、国が破綻すれば社会保障もなにもあったものではありません。しかしながら国民の健康・安心は、国防の一つであるといわれていきます。国民が健康を損ね、働く意欲を失い将来に希望がもてなくなった時、日本という国は亡びる運命にあります。かつて厚生省吉村氏の「医療費亡国論」という暴論がありましたが、当時とくらべ国民の医療費負担増・医師不足・救急医療・年金問題等、国民の医療・社会保障への意識は高まり、連日のように新聞・テレビ等で報道されています。そんな中、現役首相・大臣が、「医者はその社会的常識がかなり欠落している人が多い」だの「医者はモラルが低い」等の耳を疑うような発言があり、一応発言を撤回・陳謝したとのことですが、政治の中核にいる人がこの程度の認識しかない、本当に日本のことを考えているのかと情けなくなり、しかしながら、政治の力は強大であり、一度閣議決定された政策を覆すことは非常に困難なことから、昔からよく言われる「泣く子と地頭には勝てぬ」の通りです。

そこでどうしたらいいか、大多数の会員の先生方は医師会及び日整会等の組織に入会されていると思いますが、出来る限り組織の活動に参加して



(2)

いただき、理不尽な医療制度に対しては声をあげ、又、地域住民を味方につけ、日本の医療を良くするためにはどうしたらいいか一緒に考える時代だと思います。政局は混沌としており、正に「一寸先は闇」で何があってもおかしくはない状況です。我々整形外科医、他科の医師も含め政治に翻弄されることなく、地道に医療に専念したい思いで一杯ですが、現実には外来患者数は減少し、診療報酬も下がっています。これらは後期高齢者医療制度の混乱、在宅医療への誘導等、正しく医療費削減政策によるものです。しかしながら、今の社会状況の中、医師だけが診療報酬アップを声高に叫ぶことはかえって世間の反感をかうだけであり、整形外科医の専門性を前面に押し出し、他科との

病診連携・診診連携を通じ社会へ専門性の重要さを認識させること。介護保険への参画。クリティカルパスの活用、老人の転倒防止のため整形外科医として何かできないか第一線の開業医として社会に貢献することが、我々を救う道かもしれません。



市整会家族会 ～大阪おのぼりさんのツアー～

西澤 徹 (昭和62年入局)

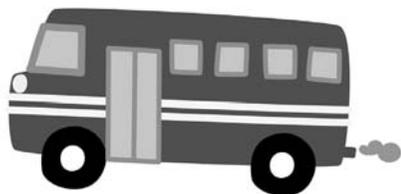
日 時：平成20年10月19日 (日)

私、「ポニョ」をずっと抱いてはしゃぎまわり、多大なご迷惑をおかけしたあの男の子の父です。まず本年の市整会家族会にご参加されました皆様に、紙面をお借りしお詫び申し上げます。ただ余程楽しかったのでしょうか。彼の興奮は数日続きました。

市整会のメーリングリストにアップされた写真にニヤニヤ、もとい反省しつつ筆をとりました。わが子中心になることご容赦ください。

* * *

暖かな秋の朝、集合地点であるおぼちゃんの聖地新歌舞伎座前はもう賑わっている。楽しみにしていた家族会だ。



「バス旅行」。なぜか心が浮き立つ。関西をめぐる巡礼に今年はわが大阪が選ばれた。が、私に一抹の不安が。

「市大の人間がわざわざ大阪めぐりに来るのか？」最近参加者が減少気味の家族会である。就任前から決まっていたとはいえ、厚生担当安田浩成先生の初仕事でこけては困る。

杞憂であった。

今年は47名の参加を得た。うち子供は8名。誠に育ちのよろしいお子達だ。騒ぎ方にも品がある。待合室のガキどもいやお子達との差異は何だ。橋下さんには、「まず親を教育せよ」と言いたい。

バスも空席が少ない。いつもなら一人で占領するシート。「カカの隣がいい」という3歳児により、追放の憂き目にあった11歳児がふてくされて、私の横に座る。

OCA会長という重責を担ったにもかかわらず、黒田晃司先生は今も市整会厚生担当だ。毎年家族総出で作ってくださるお菓子詰め合わせを、私は非常に楽しみにしている。スーツを脱いだ先輩方の素顔は素敵だ。

ビールを1本空けるころ、最初の目的地海遊館に到着。入場料の高さにもう何年も行ってない。

我が家は市立科学館や大阪歴史博物館など、小学生無料の施設にばかり詳しい。

大変な混雑。退出時には入場制限していた。海外からの旅行者が多い。

ジンベイザメ、らっこ、ペンギンあたりが人気だ。巨大水槽の底のほうからの眺めが案外よかった。下村修博士の影響か、クラゲも人気。触手、口腕など美しく飽きない。

さてお腹が空いた。お楽しみ、昼食は西天満「芝苑(しえん)」へ。打ち水をした玄関に、緊張する。

食事の前にお薄をいただく。「甘いねえ」わかるのか3歳児。

大きな座敷に一同おさまる。私は、有馬先生ご夫妻の前に座るという光栄に浴した。いつも市整会の行事に参加され、乾杯の音頭をおとりいただくので存じてはいたが、初めてお話をさせていただき、脈々と続く市大整形外科の伝統を感じた。声の張り、眼の力。到底及ばず、ひれ伏したくなった。

左横は畠中正昭先生で、自宅で会報の編集会議をされたお話など、広報の矜持を指導いただいた。お料理は一品一品吟味された材料で、工夫を凝らしてあり、とてもおいしかった。この表現しかできない自分が情けない。

私の横で「土瓶蒸し」をぐびぐび飲んでいる3

歳児。変だぞ。そういえば奈良漬も濃いのが好きだな。

宴会が盛り上がりすぎて、時間が押す。えべっさんの集団みたいになってきた。皆の顔から笑みがこぼれている。

大急ぎで湊町へ。ハイライト「なにわ探検クルーズ」へ出発だ。

棧橋への陸橋で、我が3歳児、吉川秀明先生と榎本高明先生の間に入り手をつなぎ、「ぶらんぶらん」をさせている。酔いが一気に醒めた父であった。

船一隻貸しきりで、しかも落語家が同乗する。R-1があっても勝てそうにない彼であった。子供達に言い負けてどうする。が、それなりににぎやかに。

時折開放される天井から水都大阪を満喫した。

棧橋で自由解散。半数以上の方は、2次会のジャズライブを満喫された由。私はエネルギーを200%使ったポニョ男をかつぎ、デパ地下を徘徊したのであった。



「第17回市整会ゴルフコンペ」ご報告

豊川 英樹(平成1年入局)

12月23日(祝)、時折小雨が降る中、泉ヶ丘カントリークラブにおいて第17回市整会ゴルフコンペが開催されました。若手では、ドライバーの上達が光った森川献志漢先生やアプローチが上手な戸堂慎一先生の参加があり、また、吉川秀明先生、中野博友先生、榎本高明先生、三明靖昌先生といった市整会の重鎮たる先生方も寒さにめげず参加して頂き総勢25名が集いました。スタートの岩湧コース1番は、左サイドのOBが気になるやや打ち上げのロングホール。ダボスタートだった私を含め、出だしてつまずき悪戦苦闘された先生方が多

かったようですが、そんな中(38, 41)のベスグロを獲得されるもダブルペリアのハンディに恵まれず残念ながら3位だったのが森北育弘先生。2位はドラコンも取られた中野先生。もうひとつのドラコンは「新しいパターが合わなかった」とこぼされていた中洲裕先生。ニアピンは、優勝も近いのでは、と思わせるナイスプレーの西澤徹先生と昨年度優勝者の林正樹先生が獲得され、また、あわやホールインワンの原好延先生も取られました。そして、ニアピンと共に見事優勝を飾ったのは頼功先生でした。今年一年市整会のリーダーと

(4)

して多忙を極められ、また、肋骨骨折後の痛みにも耐えられたその頑張りに神様ならぬ、サンタクロースからの一日早い新会長へのビックプレゼントとなりました。ご本人も少々驚きの優勝でありました。

さて、次回も今回同様、楯憲一郎先生のサポートを受けながら、幹事をさせていただくことになると思いますが、リミットの40名参加が実現されるよう、先生方のご参加をお待ちしております。



新入会員紹介

自己紹介

もとだ整形外科クリニック 元田 忠伸（昭和59年入局）

私は、平成20年5月8日から大阪市住之江区で「もとだ整形外科クリニック」を開院いたしました元田忠伸です。昭和59年3月に大阪市立大学医学部を卒業、同整形外科医局に入局しました。昭和61年4月から平成2年3月同大学院で軟骨の石灰化に関する研究を行い、博士号を取得。平成2年4月から平成4年6月まで和歌山県の国立田辺病院、平成4年7月から平成11年3月まで大阪府立身体障害者福祉センター附属病院、平成11年4月から平成20年3月まで大阪市立住吉市民病院に勤務いたしました。今まで皆様方には一方ならぬお世話を頂きありがとうございました。私の専門は関節外科で、特に膝、股関節の人工関節置換術、膝関節鏡視下手術を中心にさせていただいていま

した。まだまだメスを置く気にはなれず、現在もこれらの症例に関しては住吉市民病院へ紹介し、自ら手術をさせていただいています。今後もできればこのスタイルでやっていきたいと考えています。

電子カルテを導入したため、レセの経験のある人が居なくても差し支えはないと考え雇いませんでした。そのため開業してまず困ったことは自分が行った処置などを自分で点数にしなければならなかったことでした。ペーカーストの穿刺の請求はどうするの？手関節捻挫で弾力包帯をした場合どうするの？などなどまったく基本的なことすら分らないまま開業に突入してしまったことに、もっと勉強しておくべきだったと後悔しきりでした。病名も勤務医時代はあまり気にしていなかったのですが、最初のころはやはり病名のつけ忘れがたくさんありました。レセを出した後になって気がついたものもたくさんあったので、今後どれだけ削られてくるのか心配です。

今後は今までの経験を生かし地域医療に貢献したいと思います。開業医としてはまだまだ若輩者で、分からないことだらけで手探りの毎日です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。



自己紹介

こたけ整形外科 小竹 志郎（平成11年入局）

このたびは市整会へ入会させていただきありがとうございます。昨年5月に学研奈良登美ヶ丘駅前にて開業させていただきました。それから一年余り、日々の診療の繰り返しと、その合間を埋め尽くす多種多様なその他の業務に追われ矢のように過ぎ行く日々を送っております。

開業医となる以上日々の診療を延々と繰り返すことは、唯一の生き残りの道としてある程度の覚悟も願いもして来ましたが、勤務医として済生会中津病院、生長会府中病院等でお世話になっていた時代にはその存在にすら気づいていなかった運営上のその他の業務のほうは、来院管理から請求までの流れ、それを運用するスタッフの募集に教育、給与、資金繰り等の開業医共通の課題に加え、クリニックモールとしての他院との関係や電子システム等のトラブルが空きあらば、うず高く積み上がってゆくのを呆然と眺めつつ、結局はその多くを妻に丸投げしてしまい、己の器と非才を嘸み縮めるばかりです。

そんな二年目の現実の中ではありますが、自分の開業の中心的テーマである運動器のセルフケアの確立へむけて、自身が十数年来取り組んできた

西洋化以前の日本的身体躁法の探求と鍛錬を、隙を見ては実践し少しずつ日常の生活や診療へも取り入れ始めております。たとえば広重の浮世絵で東海道五十三次を駆け抜ける飛脚たちは、そりもそろって見事にミクリツ線が脛骨の中心を貫いた見事な足運びを見せますが、そのエッセンスをとりこんで初期の膝OAにポジションや体操法の指導をしていくのはとても楽しいのですが、もちろん経営者としてはそんな趣味ばかりも言っておれず、そそくさと関節注射もお勧めしております。

時代は今後ますます開業医にとって厳しいものになってゆくのは確実で、その寒風のなかで右往左往しつつも「心をまんなかにおいて、静かにゆるがせ（五輪書、水の巻）」生きてゆきたいと思っております。



おすすめCD

宮脇 裕二（昭和55年入局）

昨年8月31日に天王寺のジャズ喫茶『トップシンバル』が閉店となりました。この店は学生時代によく行っていた店で、私語禁止の中、大音量のスピーカーの前で試験勉強をしていたものでした。卒業後も年に1、2回は訪れていました。大阪や神戸にもジャズ喫茶はあるのですが、昨今のジャズ喫茶は昔と形態も変わってきたのに、この店のはかたくなに昔のスタンスを維持していました。つまり、ジャズ喫茶にはつきもののヘンコツオヤジ、適度に暗く、大音量でガンガンならすスピーカーがすべて揃っていたからです。その他にも天王寺界限には『無限』、『しぶんきゅうふ』などのジャズ喫茶があったと思いますが、しぶんきゅうふはまだあるのかな？いずれにしても古き良き時代

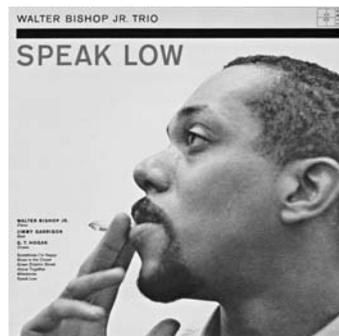


写真1

(6)

の市大界限のニオイがまた消えて行ってしまったのは悲しいことです。

さて今回のお薦めCDはこのようなジャズ喫茶にて大音量でガンガンにかかっていたLPのCD盤をご紹介しますと思います。まず最初は私の最も好きなレコードで、もしも無人島に1枚だけ持って行くならばこのLPと雑誌でよく言われていたものですWalter Bishop Jr. Trio: Speak low. MZCB-1179 (写真1)。聞いていただければわかるのですがとにかく音が強かつ太いのです。近頃流行のヨーロッパ系のピアノトリオの美音と明らかに異なる世界で、聞くものの耳に強く訴えかけてきます。2番目は、これも名盤中の名盤ですが、ハードポップの人気者ジャッキーマクリーンのワンホーンものSwing Swang Swingin: TO CJ-7007 (写真2)です。このCDがジャズ喫茶の定番であった理由はとにかく選曲がよいこと、スタンダードナンバーばかりをワンホーンの構成で吹きまくっているということにつきると思います。最後に、学生時代定期試験の結果が思わしくなかった時にGerry Mulliganのバリトンサックスでも聞いてコーヒーをすすりながら、ほんのり一人涙ぐむというのはいかがでしょうか? Gerry Mulligan. Night Lights : UCCU-9426 (写真3) 4曲目のPrelude in E minorがいいです。

以上ジャズ喫茶の定番と言われるLP (CD) を今回ご紹介させていただきました。



写真 2

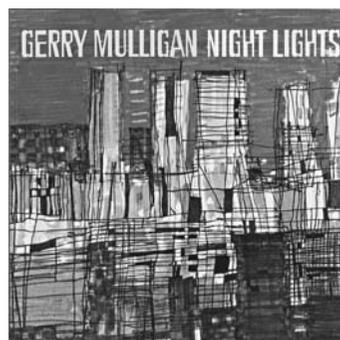
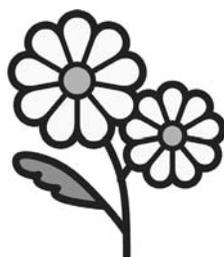


写真 3



編集後記

あけましておめでとうございます。長引く不景気の中会員皆様はいかがお過ごしでしょうか? 今月から市整会会報は忙しい年末は避けて新年にお届けするようになりました。暗いニュースが数多く報道される毎日ですが、市整会会報ではできるだ

け明るい話題を提供できればよいのかなと思っております。会員皆様のご投稿、内容は何でも構いません、よろしく願いたします。

(広報: 宮脇裕二)